

月刊 介護保険 5

介護に携わる人の情報誌
No.159 2009



【特集】
次期大改正のキーワードは「地域包括ケア」
介護保険界のリーダーに聞く

フォトレポート
汽笛を聞き、潮の香りに包まれ、快適に暮らす「フロイデ彦島」

Report 支援が必要な人への接客サービスを向上

る窓口として、健康介護コンシェルジュのいるお店のような地域福祉の民間窓口が求められている。古川も「介護保険制度の導入で、福祉用具の選択権が介護支援専門員に移ったものの、介護ショップに通う高齢者やその家族がすっかり少なくなりました。開業して10年、20年と歴史が長く、介護業界に精通しているお店の関係者は、これまでにさまざまな相談に応じてきていますので、ノウハウもあり、周辺事情に詳しいいので、それを活用しない手はありません」と語る。

今後は、この「お店」と共同して、いわゆる関わり合いの深い状態の高齢者にとって必要なグッズやケア商品などをそろえた、新しいタイプの健康介護ショップができないか、メーカーなどと共同で研究している。

将来的には、店の入り口に貼るためのステッカーを作ることなども考えているが、古川氏は「始めて1年程度は、より取り回ししやすい」と慎重な構えである。

「健康介護コンシェルジュのいるお店」を訪ねて

■西フジヤマサービス (東京都大田区)



▲三浦浩司氏

東京都大田区で、福祉用具販売・賃貸、住宅リフォーム、有料老人ホームの相談などを行っている西フジヤマサービスは、昨年4月に雑誌「ケア」でも、創刊時はその経営に貢献して、健康介護コンシェルジュにいらるお話を求めている。スタッフにも、まずはその問い合わせやすい態勢でも、やるだけ「ケア」といわずに、受け止める姿勢を徹底している。代表取締役の三浦浩司氏は、今後、介護保険が力になる動向は、中小企業にある一方で、民間主導で新しいサービスの開発が進むことなども想定されていますので、古川さんから「健康介護コンシェルジュ」の話を



▲西フジヤマサービス

聞いたときには、まさに時代を反映したものだと感じました」と語る。

健康介護ショップを訪れる人は多く、何となくとはいえず、今が多いが、なには、必ずしも今すぐ何かに困っているわけではないが、相談に来る人もいる。三浦氏は「困っている人の悩みや悩みを幅広く受け止め、自分からすすんで利用したとしても、もつたことと受け止める」と述べ、前向きに取り組みしたい。

行政機関や地域包括支援センターと最も真なる点は、「介護事業

■ウェルブラザ 薬 (大阪府八尾市)



▲ウェルブラザ 薬

昨年11月にトヨタの直営ショップにオープン。デサービス運営しているのが、高齢者のサロンをメインにして「介護と福祉用具の販売をする」スタートすることになった。

もともと、中にはトヨタの福祉車両が展示されていて、サロンの際には、フィットネススクラがある。

経験の長いわれわれらからみて、よいと受入る事業所を紹介できることだという。たしかに具体的な情報を求めるニーズは高いに感じない。